

I 学校教育目標

知性を磨き 意思を鍛え 健康な心とからだをつくる

人権尊重の精神に立ち、心身ともに健康で調和のとれた人格の完成を目指し、他者を思いやる心を持ち、変化の激しい社会において柔軟に対応できる人間を育成する。

II 目指す学校像、生徒像、教師像

◇ 学校像

学校は多くの人間が集まってお互いに関わり合い、触れ合うことで、個々の人間が成長していく場である。学校教育目標の達成に向け、

教職員は日常から共通理解を密に図りながら一丸となって指導に当たる。

生徒は、礼儀正しく自他を大切にし、何ごとにも意欲的に目標をもって取り組む。

家庭や地域は学校の良きサポーターとして、様々な教育活動にかかわっていく。

- ◇ すべての生徒が楽しいと思える学校
- ◇ 個が生き、相互に関わりあうことで、集団として高めあえる学校
- ◇ 保護者・地域と共にある魅力ある学校

★ 「TEAM KISO」

～木曽中学校に通う子どもたちのために協働して働きかけるすべての人～

教職員は自らの職責を果たし、お互いの職務において連携・協力・支援を行う

木曽中学校の生徒のために、教職員・家庭・地域が一体となって子どもたちを育成する

◇ 生徒像

- ◇ あたり前のことを当たり前に行う生徒
- ◇ 目標に向かって前向きに取り組み、また課題に対しては自ら解決を図ろうとする生徒
- ◇ 道徳的価値や人権感覚を磨き、規律ある行動をし、自他を大切にできる生徒

これからの予測困難と言われる社会を迎える中で、10年後には社会を支えていく人材となる子どもたちに対して、自立して生きていくことができるような知識、経験を積ませていくことを重視したい。様々な取組の中で、子どもたちが自ら考え行動する経験や、他者との関わりの中で学校行事等に取り組む経験を通して、他人を思いやる気持ちを育てていく。

◇ 教師像

- ◇ 教育への情熱をもち、専門性を高め、常に生徒のよりよい育成を考えた指導を目指す教師
- ◇ 社会人としての常識を踏まえ、教育公務員であることの自覚を持ち、公明正大で人間愛にあふれている教師
- ◇ 生徒・保護者・地域の願いに応えるべく努力を続ける教師
- ◇ ワークライフバランスのとれた働き方を意識して、心身の健康に留意し、効率的に公務を遂行する教師

学校生活の中で最も多くの時間をかけて行う教育活動は「授業」である。授業時間内で、一人一人

の子どもたちに「わかった」と思える場面を、授業の中でいかに多く感じさせるかを考えることが教員としての使命です。日々の授業を充実させることが、子どもにとって学校が「楽しい」と感じる一番のポイントであることを肝に銘じて、教師は常に授業研究に励みます。

Ⅲ 令和7年度の学校経営計画推進のための具体的方策（抜粋）

（1）生徒指導について

① 学習指導

- ・ 主体的・対話的で深い学びの実現を図る。授業改善と指導方法の工夫について、研究推進委員会を中心に学校全体で取り組む。英語・数学での少人数授業を実施する。
- ・ ICT機器の活用により、生徒が自ら進んで学習の取り組む態度を育成する。
- ・ 各教科で、言語活動の充実を図り、深い学びにつながる考察や思考力・判断力・表現力を高め、話し合い活動を充実させ、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の伸長を図る。
- ・ 教員は、授業力向上のため、校内研修や中教研、各種研究会に積極的に参加し、自らが自身の課題を把握し、指導力の向上に努める。校内においては全教員が年間で1回以上の公開授業の場を設定し、お互いに授業を参観しあう校内研修を企画実施する。授業公開をきっかけに生徒理解を深め、すべての教員の授業力の向上を目指す。

② 生活指導

- ・ いじめは絶対に許さないという共通理解のもと、道徳教育の充実、「心のアンケート」の活用等と併せて、スクールカウンセラー・保護者・地域や関係諸機関との連携を密にし、いじめの早期発見・早期対応を行う。いじめ事案が発生したときは、速やかにいじめ対応チームにより解決に向け組織的に取り組む。教職員は日常から生徒の様子に注意を図り、常に生徒の変化に関心をもち、情報を教職員全体で共有することを心がける。
- ・ 自殺予防を推進するために、年間指導計画に位置付けた命の大切さを学ぶ授業を行うとともに、万一の事態には、自らSOSを発信できるような指導を継続的に実施する。また、いのちの授業の取組等、命の大切さ・重みを知る体験的な活動を行うことで、自尊感情を高め、自分の生き方を考える機会をもつ。
- ・ 不登校対応巡回教員を中心に校内委員会で不登校生徒の状況を共有することで、様々な事由で登校を渋ったり不登校の傾向にあったりする生徒に対して、個々の状況に応じた対応を丁寧に行っていく。不登校対応巡回教員と連携し、不登校気味の生徒が学校に登校するきっかけとなる場となる、「エンカレッジルーム」の運用を整える。また、保護者や関係諸機関等と連携しながら組織的に取り組む。
- ・ 教育活動全体を通していじめや暴力を許さない人権教育・規範教育を推進する。特にいじめの防止に向けた授業を各学期初めに実施する。また、規範意識や公共心を高め、命の大切さを考えさせる。そして、「考える道徳」「議論する道徳」を計画的に実施し、いじめに関する授業を年3回以上実施し、生徒一人一人の道徳的心情・道徳的判断力・道徳的实践力の育成を図る。

③ 進路指導（キャリア教育）

- ・ 上級学校や外部との協働による進路指導及びガイダンスを通じて、適切な情報提供を実施する。また、丁寧な面談等を通じて進路意識を高め、希望進路の実現のために、生徒が自ら進む道を切り開いていく力と意志決定力を身に付けさせる。
- ・ 職業講話、職場体験、キャリアパスポートの活用等を通して、自己肯定感や自己有用感を高め、

望ましい勤労観・職業観を育む。そして、M E S Eに取り組み、新たな時代に必要な社会的自立・職業的自立の基盤となる能力を育む。これらの活動を含め、3年間を見通したキャリア教育の体系について、進路学習部を中心に整備・充実を図っていく。

④ 特別支援教育

- ・ サポートルーム拠点校として特別支援教室と通常学級との円滑な接続を図るとともに、巡回校での適切な支援と助言を行い、本校のみならず、町田市全体の特別支援教育の充実を図っていく。
- ・ 特別支援コーディネーターを核として、特別支援教育校内委員会を中心に、特別な支援を必要とする生徒について検討し、安心・安全な教育環境を作る。そして、個々の実態に応じた合理的配慮等の共通理解を図り、適切に指導していく。
- ・ 教職員の特別支援教育に対する理解を深め、障害の特性を理解し、生徒個々のケースに応じた対応がとれるようにする。

⑤ 安全・安心について

- ・ 事故、けが等が発生した場合には、生徒への適切な対応を速やかに行うとともに、保護者への連絡についても遅滞なく行うこと。
- ・ 災害発生時や不審者が出現した場合などは、対応マニュアルに沿って冷静に組織的に対応する。
- ・ 学校の施設や教材・教具及び指導方法の点検を綿密に行い、事故を予見し、事故防止に努める。

(2) 家庭・地域との連携について

- ・ 学校のサポーターとしての協力を得るため、保護者会や面談などの機会を利用し、家庭と学校との連携を強める関係を築いていく。
- ・ 生徒の豊かな学び、成長のために、地域の素材や人材を活用したり、学校支援のためのボランティアを効果的に活用したりして、教育活動を展開していく。そのために、ボランティアコーディネーターとの連携も進めていく。
- ・ 学校運営協議会、PTA、健全育成地区委員会等の関係諸機関との連携を強める。
- ・ 社会に開かれた教育課程の実現に向けて、学校運営協議会からの学校運営に向けた幅広い意見をまとめ、地域に根ざしたよりよい学校づくりに生かしていく。
- ・ 学校公開や行事、地域との交流の機会や、学校だより・学年だより、ホームページ等を利用して学校の情報を地域・保護者に発信していく。
- ・ 町田市立中学校部活動の地域連携・地域移行に向けた方針及び計画に基づき、部活動の地域連携に関する取組を推進していく。

(3) 服務の厳正について

教育公務員としての自覚に基づき、都民からの信頼を失うことがないように厳正な態度で勤務するとともに、コミュニケーションのある職場づくりを一層進める。服務事故防止に向けた定期的な服務事故防止研修研修会を実施するとともに、継続的に事故防止の啓発をしていく。

(4) 働き方改革について

- ・ 教職員一人一人が自身の働き方について常に意識をして、自身の果たすべき校務を常に先を見通して計画的に進め、作業の効率化を図る。また、校務を複数で受け持つ場合は、お互いの分担や進捗状況の確認、フォロー体制をとって効率的に業務が進むようにする。校務支援システム(C4th)を活用し、校務改善に努める。
- ・ 労働安全衛生の観点から、時間外の勤務については、月45時間以内を目標に、最大でも月80時間を超えることがないように計画的効率的に行う。